



ぞうぐみだより No.8

令和3年9月30日

ぞう組担任 小暮 結実

2学期が始まり、一ヶ月が経とうとしています。9月は、『ぞうぐみらんど』に年少・年中組さんを招待したり、様々な行事に参加したりしました。

ぞうぐみらんどへようこそ!

夏休みに楽しんだことを遊びの中に取り入れて再現している子どもたち。数名ずつの仲間と思いや考えを出し合いながら、一緒に遊びの場や遊びに必要なものを作っていく中で、「今、ぞう組でどんなことをして遊んでいるかな?」と、それぞれが楽しんでいる遊びをみんなで伝え合ってみました。流しそうめん、かき氷屋さん、アイス屋さん、おばけやしき、魚釣り、マルチパネのホテル・・・などの遊びがあがり、「お客さんに来てもらいたいね。」「年少組・年中組の友達を招待してみよう!」ということになりました。『ぞうぐみらんど』と題して、「おばけやしきを出たら、魚釣りをして、バーベキューをしたら、ホテルに入れるっていうのはどう?」「バーベキューのところではアイスコーヒーも売ったらいいかも!」と、お互いの遊びが繋がったり、さらにイメージが広がったりしていき、招待に向けて準備を始めました。

これまで、かき氷を本物らしく作ることや、いろいろな種類のおばけを作ることなど、遊びに使いたいものを自分たちで考えて作ることを楽しんでいましたが、「お客さんを招待するためには、どんなことを用意したらいいだろう?」と投げかけると、「お店の場所が分かるように、看板があるといいんじゃないかな?」「看板はよく見える大きさがいいね!」と、子どもたちなりに考えたことを言葉にして伝え合い、招待に向けて遊びのコーナーを一緒に作っていかうとする姿が見られました。また、それぞれのコーナーで今日どのようなことを進めたか、明日はどうか、伝え合う時間を通して、自分のコーナーを作りながら、学級の友達がしていることにも目を向け、一緒に『ぞうぐみらんど』に向けて取り組む気持ちをもつことができるようにしました。

それぞれのコーナーができてきたところで、教師がお客さん役になって、招待するにあたって必要な言葉や動きに気付くことができるような言葉を掛け、子どもたちの気付きを引き出しました。

招待する前日には、ぞう組の中で交代してお互いのコーナーで遊んでみました。友達がお客さんになって来てくれることで、「お客さんがたくさん来てくれて、嬉しかった!」「おばけが本物みたいですよいいね!」「流しそうめんの、お箸とフォークが選べるのがいいなって思った!年少さんもできていいね!」と、楽しさや嬉しさを感じたり、友達のしていることを認める言葉を掛け合ったりする様子がありました。「今日、自分たちがお客さんになってみて、『小さい友達がこんなことに困るんじゃないかな?』と気付いたことはある?」と問いかけてみると、「年少さんと年中さんは初めて来るから、入口が分からなくて困るかも。」「入口はこちらです、っていう人がいるといいね。」「食べる場所が分からないお友達には、席まで案内してあげよう。」と、自分たちで遊んでみたことで感じた気付きを伝え合うことができました。

ながしそうめん

流しそうめんは、どうしたら本物のように流れるか何度も試し、牛乳パックで作ったといにすずらんテープを付けると流れやすくなることに気付きました。また、一日の振り返りでそのことを学級のみんに伝えると、「もっと高いところから流したらいいんじゃない?」というヒントをもらい、さらに傾斜をつけてみたり、麺を使う毛糸を変えてみたりして、作りました。

自分たちで何度も遊んだり、年少組さんのお部屋に持って行って一緒に遊んでみたりする中で、箸を使って取るのが難しい友達もいることに気付き、「お箸とフォークどちらにしますか?」と聞くことにしたり、麺をすぐに流せるように1回分ずつ小分けしておくことにしたりと、お互いの気付きを取り入れながら工夫する様子がありました。



お箸とフォーク
どちらがいいですか?



麺は1回分ずつ
分けておこう!



ぞうぐみ ぜりー・じゅーす



最初は、色水を作ってゼリーやジュースを作ることを楽しんでいました。年少組・年中組を招待するにあたって、水を使ったものはこぼれてしまうかもしれないと気付き、色水ではなく、お花紙を透明カップやコップに入れて作ることにしました。友達と一緒に綺麗な色のゼリーとジュースを作ったり、看板を作ったりしてお店ができていく嬉しさを感じていましたが、教師がお客さん役になって、「どこで食べたらいいんだろう?」「食べ終わったらどうしたらいい?」と声を掛けると、少しずつお客さんへの必要なかわりに気付いていきました。『ぞうぐみらんど』では、年少・年中組さんの隣にそっと寄り添って席まで案内したり、優しく声を掛けたりする様子が見られました。

そうぐみさーていーわんあいす

2学期の初めから、紙粘土を丸めて色を付け、アイス作りを楽しんできました。そうぐみらんどに向けて、アイス屋さんを開く準備をしようとした時に、お互いのもっているアイス屋さんのイメージに違いがあることに気がきました。作ったアイスをお味ごとに分けておいて、お客さんの注文を聞いてから盛り付ける方法、コーンに盛り付けておき、並べて売る方法など、まずは一人一人がもっているイメージを伝え合えるように、教師も傍で言葉を補いながら子どもたちで相談しました。並べる際には、透明のシートを使うと本物のショーケースのようにできることを伝えると、「ビーズでデコレーションして並べたら素敵じゃない?」「いいね!」「上の段にコーンのアイス、下の段にカップのアイスを並べたらどう?」と、遊びたいイメージが共通になり、アイデアがさらに出てきました。お客さんからよく見える場所を探して看板をつけたり、教師がお客さん役になってみることで必要な役割分担に気付いたりしました。



ビーズで素敵に飾ろう♪

看板はここにしよう!



どうぞ♪



かきごおり

かきごおりは、2学期が始まってすぐに、夏休みの経験から始まった遊びでした。

最初は、絵の具で作ったシロップをスポイトでコーヒーフィルターにかけて作り、「メロン味は黄緑色がいいね」「黄色は絵の具が少ないとあんまり色が出ないね」と、試しながら本物らしく作ることを楽しみました。

これまでは作ったかきごおりをお盆にならべていましたが、かきごおり屋さんを開店することになり、「本物のかきごおり屋さんみたいに、注文を聞いてから作りたい」「メニューと看板も作らないと」「年少さんも分かるように、メニューは絵の方がいいね」と、やってみたいことや必要なものを友達同士で出し合って、開店の準備を進めました。

お客さんへのかかわり方や、必要な役割に気付くことができるよう、「誰に注文したらいい?」と問いかけると、「じゃあ、私が注文を聞いて、〇〇ちゃんに言うね!」「私は、食べ終わったお皿をもらいにいくよ。」と気付いて、友達同士で分担を決めました。招待して遊ぶ中で、子どもたち同士で役割を交代したり、かきごおりを持って困っている友達を見つけて、「私ちょっと案内して来るね!」「分かった!」と声を掛け合ったりして一緒に進めていく姿が見られました。



何味に
しますか?



いちご味だっ!



おばけやしき

夏休みにおばけやしきに行った友達の話から、「おばけを作りたい!」と、カップや空き箱など身近な素材を使っておばけを作り、ロッカーを動かして作った場所に飾っておばけやしき作りを楽しんでいました。また、学級で絵本「わんぱくだんのおばけやしき」を見たことで、ちょうちんおばけやのっぺらぼうなど、いろいろなおばけのイメージが共通になり、たくさんの種類のおばけができました。

おばけやしき作りをじっくり楽しんできた子どもたちに、お客さんが来たらどうやって案内をするのか、出てきたお客さんを次はどこに案内するのか、気付くことができるように声を掛けることで、コーナーを作るだけでなく、作った場所にお客さんを呼んでどのようにかかわるか、「おばけやしきは歩いて通ってね」「ここに並んで待ってね」と、言掛けを自分たちなりに考えていました。

百目を作ろう!



まるちばねぼてる

これまで、友達と力を合わせてマルチパネを組み立てて、マンションや家、海賊船などを作ることを楽しんできた子どもたち。自分たちが組み立てて作った場所を『ぞうぐみらんど』のホテルとして、「年少・年中組さんも乗せてあげよう！」ということになりました。まずは、「小さい子が乗れる高さに変えないと」と気付いた友達の声をきっかけに、天井に届くほど高く組み立てたものを組み直し、入り口の高さを低くしました。組み直しながら、「屋根のあるところはベッドにしよう」「隣の部屋では、小さいパーツでゲームをできるようにしよう」と、思いついたことを声に出しながら組み立てていきました。ホテルの建物ができたことに満足感を感じ、自分たちで中に入って寝てみたり、屋根に登ってみたりしている子どもたちに、「ホテルにはどうやったら入れるのかな」「どこから入って、出たらいいだろう?」「横から登ってもいいのかな?」「屋根の上は年少・年中組も登れるのかな?」と問い掛けていくと、「ホテルの横に並ぶ場所を作ろう」「小さい子が落ちないように、入口と出口で支えてあげないと!」「危ないから、小さい子は屋根の上に登るのはなしってことにしよう」と、遊ぶ際の約束や案内の仕方が仲間同士で共通になっていきました。

そう組同士で遊んだ際に、実際にお客さんが入るとホテルの中がいっぱいになったり、出入り口が同じになっていることで混雑したりしてしまうことに気付きました。解決策を自分たちで考えられるよう、仲間で話し合う場を設け、教師も一緒に入って子どもたちから出てきたアイデアを整理しながら、「ベッドの部屋は3人までね」「いっぱいになりそうな時は、チケットをもらう人が『ちょっと待ってね』ってお客さんに言おう」「出口を違うところにして、混雑しないようにしよう」ということになりました。

招待当日は、登ったり降りたりする時にそっと身体を支えてあげたり、仲間同士でチケットを配る人、受付をする人、出入り口で見守ったり、支えたりする人といった役割を自然と交代したりしながら、かかわる様子が見られました。



みんなでチケットを作ろう



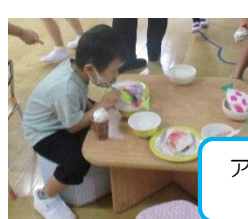
気を付けて登ってね



さかなつり・ばーべきゅー・あيسこーひー

1学期、こいのぼりのうろこ作りで経験した、コーヒーフィルターに水性ペンで色を塗り、霧吹きでにじませる方法で、魚作りを楽しんでいた子どもたちは、磁石の釣り竿で魚釣りができるよう、作った魚にクリップを付けたり、釣れるかどうか自分たちでやってみたりしていました。学級のみんで、それぞれの遊びのコーナーの場所を確認した際に、ある友達が「お化け屋敷を出たら魚釣りができるのはどう?」と思いついたことをきっかけに、「釣った魚をバーベキューで焼いたらいいんじゃない?」「じゃあ、僕のアイスコーヒー屋さんも隣に開いて、一緒に食べられるようにしよう!」とお互いの遊びがつながり、同じコーナーで進めていくことになりました。

魚釣りコーナーとアイスコーヒー屋さんの準備ができたところで、教師が「バーベキューして、アイスコーヒーも買ったら、どこで食べようか」「魚はこのまま食べるのかな?」と、必要な場やものに気付かせるような声を掛けることで、絵本コーナーの小さいテーブルと椅子を持ってきて食べる場所を用意したり、食器を持ってきて焼けた魚を盛り付けてあげることになりました。



アイスコーヒーは
いかが?



ぞうぐみらんどの最後には、「来てくれてありがとう」の気持ちを込めて、一人ずつ「何色がいい?」と好きな色を聞いて、ヨーヨーをプレゼントしました。



実際に招待してみると、お客さんが来てくれること、喜んでくれることに嬉しさや楽しさを感じると同時に、「おばけをもっと見てほしいのに、すぐに通り過ぎて行っちゃう」「ここに並んでねって言っても伝わらない」「たくさん注文するお客さんがいると、作るのが間に合わなくて困った」など、自分たちの思うようにならない場面もありました。そこで、「いろんなおばけがいるから、よく見てみてね」「注文は1つまでね」と声を掛けてみたり、一緒に並ぶところに連れて行ってあげたりと、自分なりに年下の友達への伝え方を考えながらかかわろうとする姿が見られました。また、それぞれのコーナーがありながらも、お互いのコーナーでの困りごとをみんなで共有して一緒に考えたり、「こんな方法があるよ!」と伝え合ったりする中で、学級全体のつながりも感じることができました。

あかしょうちえん90さい おめでとう!

今年度、明石幼稚園は開園90周年を迎えます。そこで、大きなケーキを幼稚園のみんなで作ることにしました。大きなケーキになる土台を、段ボールで作ってぞう組前のなかよし広場に置いておくと、「なんだろう?」「大きいテーブルかな?」「太鼓にも似てるよ」と興味をもっていました。一回り小さいものも上に乗せると…「わかった!ケーキだ!」「クリームをつけたいな」「イチゴとろうそくも飾らないと」と、自分たちで飾り付けたい気持ちが出てきました。そこで、まずは年長組で白い紙をクリームに見立てて、うすめた糊を刷毛で塗って貼っていきま

した。ケーキ全体が白いクリームでいっぱいになったところで、今度はうさぎ組と一緒にケーキに飾るフルーツを作ることにしました。なかよしペアの友達と、作りたいフルーツを決めて、2人または3人で一緒に1つのフルーツを作りました。リンゴ、梨、ブドウ、マスカット、サクランボ、イチゴ、ミカン、桃など、いろいろなフルーツの中から、「何のフルーツにする?」と、うさぎ組の友達に自分から聞いてあげたり、自分の作りたいものと友達の作りたいものが違ったときには、「じゃあ、最初に〇〇くんが作りたい方を作ろう!」と言ったりと、一人一人が年下の友達へのかかわり方を自分なりに考えて接してみようとする様子が見られました。うさぎ組さんがテープで留めるところに手を添えたり、ヘタや葉っぱは切ってあげたりして作り、できあがったフルーツは一緒にケーキに飾りにいきました。1つ飾ると、「もう1個作ろう!」と、嬉しそうに言いながら、また次の材料を一緒に取りに行く姿も見られ、楽しい気持ちや嬉しい気持ちが伝わってきました。



お月見の会

学級で、大型絵本や紙芝居を通して、もうすぐ中秋の名月を見られることや、月見団子、すすきを飾る由来などにふれ、幼稚園にあるすすきを探しに行きました。すすきを見付けると、穂や細長い葉に気付いて触ったり、観たりしました。また、トンボやコスモスなどの秋の自然に気付いて、少し涼しくなったことや秋風の心地よさも感じていました。

保育室に戻った後は、すすきを作ってみることにしました。本物のすすきの穂のように、ハサミで細く丁寧に切ることを意識して作りました。

お月見の会では、作ったすすきを飾り、遊戯室を暗くして行いました。また、黒いボードを用意し、みんなで「でた でた月が♪」と「つきのうた」を歌うと…きれいな満月が浮かびました。満月の上に、同じ大きさの黒い画用紙を重ねて動かし、月の満ち欠けについてもふれました。

翌日、「お家でもお団子を作ったよ!」「作ったすすきを飾って、お月様を見れたよ!」と教えてくれて、ご家庭でも季節の行事に親しみ、楽しんだ様子が感じられました。

まごころプロジェクト

今回、年長組で、社会福祉法人連絡会主催の、「おたよりでつなぐ“まごころ”プロジェクト」に参加しました。区内の17法人が連携し、地域社会に貢献するというもので、コロナ禍で直接的な交流が難しい中でも、子どもたちと高齢者・障害者の方が交流できるように、と企画されたものです。

明石幼稚園では、「レインボーハウス明石」さんへ、7月のミニコンサートで歌った「にじ」の歌と、「僕たち、私たちは毎日元気に遊んでいます。」「いつか会える日までお元気でいてください。」という映像のおたよりをお届けしました。

12月頃には、幼稚園へおたよりをいただける予定となっています。

今後も、こうしたつながりを、工夫して築いていけるようにしていきたいと思っております。